

2019年度 事業報告書
(令和元年度)

学校法人 箕面学園

I. 学園概要

1. 設立目的

天賦の才能を十分に伸ばさせるとともに、男女それぞれの特性を生かし、品性の高い教養ある人間を育成する。穏健な思想、円満な良、国家社会のよりよき一員をたらしめる。

2. 学園沿革

昭和21年	3月	財団法人箕面高等女学校設置認可 開校
昭和23年	4月	学制改革により箕面学園中学校、高等学校を開設 現在地に新校舎を竣工、移転
昭和24年	4月	箕面学園附属幼稚園を開設
昭和26年	3月	学校法人箕面学園に組織変更
昭和28年	4月	大阪学芸大学(現・大阪教育大学)の指導により 箕面学園幼稚園教員養成所開設 (後・箕面学園福祉保育専門学校)
昭和31年	4月	箕面学園幼稚園教員養成所を同保育専門学校に改称
昭和38年	4月	鉄筋コンクリート造3階建南館、増築
昭和39年	3月	鉄筋コンクリート造4階建本館、増築
昭和40年	1月	体育館兼講堂等鉄筋コンクリート造地上3階地下1階
昭和50年	12月	保育専門学校 新校舎竣工
昭和51年	4月	附属幼稚園 新園舎竣工
昭和58年	3月	図書館(以文館) 新築竣工
昭和61年	3月	創立40周年記念 光風館新築竣工
平成4年	2月	高校セミナーハウス(湖西学舎)新築竣工
平成6年	6月	茨木グラウンド(茨木市泉原) 竣工
平成9年	10月	創立50周年記念式典挙行
平成10年	4月	池田キャンパス開設(作業療法学科新設)
平成26年	10月	北館、南館、保育専門学校、幼稚園 耐震補強工事竣工
平成27年	10月	本館耐震補強工事及びトイレ等改修工事竣工
平成27年	11月	創立70周年式典並びに祝賀会を挙行
平成28年	8月	高等学校食堂リニューアル改修工事竣工 理事長室、学園事務室改修工事竣工
平成29年	8月	グラウンド人工芝化竣工
平成30年	10月	高等学校クラブハウス竣工
	10月	幼稚園増築棟、既存保育室リニューアル工事竣工 (認定こども園移行に伴う)
令和元年	9月	東館一部改修(支援教室)

3. 役員の概要 (令和2年3月31日現在)

理事 6名 監事 2名 評議員 13名

4. 法人設置校及び施設

「箕面学園高等学校」 普通科総合選択制 箕面市箕面7丁目7-31

「箕面学園福祉保育専門学校」 保育科、介護福祉科、作業療法学科
箕面キャンパス 箕面市箕面7丁目7-31
池田キャンパス 池田市八王寺1丁目1-25

「幼稚園型認定こども園箕面学園附属幼稚園」
3年保育 箕面市箕面7丁目7-31

「箕面学園第二グラウンド」 茨木市泉原39-1

「箕面学園湖西学舎」 滋賀県大津市和邇中357

5. 経費の節減

- (1) 施設内の明器具をLED化に更新するなど今後も随時更新して行く。
- (2) 消耗品等の物品は、合い見積もりにより稟議決済を強化し購入するなど変更した。

6. 施設整備事業

- (1) 高等学校 東館の一部を支援教室に改修工事を行った。
- (2) 高等学校 第三期ICT化に伴いプロジェクターの導入、インフラ整備も行った。
- (3) 幼稚園 園庭に藤棚を設置する工事を行った。

7. 学校評価への取り組み

幼稚園、高等学校で、PDCAに基づき学校評価、学校関係者評価を実施し公開した。

8. その他の取組

令和元年度、理事会を6回、評議員会を3回開催し、学園の情報共有や様々な課題について議論を行った。また、私立学校法改正に伴い学校法人箕面学園の寄附行為を改定し、より役員職務と責任の明確化、監事職務の明確化と監査機能の強化、評議員会機能の実質化を強化する内容とした。

Ⅱ. 箕面学園高等学校

1. 平成31年度（令和元年度）募集人員

210名 普通科総合選択制

2. 令和元年度在籍数（平成31年5月1日現在）

1年 202名

2年 144名

3年 105名

合計 451名（男子399名、女子52名）

3. 納付金改定

令和2年度（2020年度）より授業料を年額36,000円値上げの576,000円に改定したく大阪府に申請し、認可された。

4. 生徒募集

(1) 渉外担当者による渉外活動（広報活動）を強化し、高等学校管理職とのミーティングを実施し情報共有に努めた。

(2) オープンキャンパス4回、入試説明会2回、塾対象入試説明会を1回実施した。

(3) 入試を4回実施し、合計177名の入学者を確保した。

5. 環境整備

(1) 消防法の適合に向けて順次改修工事を行った。

(2) 受動喫煙防止法改正により、学園敷地内の完全禁煙化に努めた。

(3) 危険箇所の点検、整備を行った。

6. 教職員研修

人権研修、ハラスメント研修、教職員の意識改革研修等を実施し、教職員間での情報共有を行い、教職員の意識、教育の質の向上に努めた。

7. 高大連携協定

大阪学院大学、短期大学 H24.5

芦屋大学 H26.3

大手前大学、短期大学 H26.3

8. 生徒の各推移

(1) 転退学率推移

年 度	期 首	離脱数	期 末	離脱率
H 2 8	5 8 7	4 5	5 4 2	7. 4%
H 2 9	5 0 2	3 0	4 7 2	5. 9%
H 3 0	4 4 3	2 5	4 1 8	5. 6%
R 1	4 5 1	2 5	4 2 6	4. 5%

(2) 令和1年度 進路状況 101名卒業

①大学（抜粋）

芦屋大学	2名	追手門学院大学	2名
大阪青山大学	1名	大阪学院大学	7名
大阪経済法科大学	1名	大阪商業大学	1名
大阪電気通信大学	2名	大手前大学	2名
京都先端科学大学	1名	神戸医療福祉大学	2名
神戸国際大学	2名	中部学院大学	1名
摂南大学	1名	びわこ成蹊スポーツ大学	1名
桃山学院大学	1名		

②短期大学

産業技術短期大学 1名

③専門学校

箕面学園福祉保育専門学校他25校 40名

④斡旋就職（抜粋）

ANA FESTA、BODYMAKER、アンダーツリー
プロパティ・ケア、がんこフードサービス、神崎金属印刷
サンレー冷熱、北大阪振興、コカコーラボトラーズ
ダイハツメタル、阪急阪神エムテック、ヤマダ電機2名
社会福祉法人大阪府社会福祉事業団

Ⅲ. 箕面学園福祉保育専門学校

1. 広報活動

- (1) HPの活用を充実させ、今後SNSを利用した広報活動に向け、意思疎通を図りながらHPを更新している。
- (2) 指定高校対策の強化、精査を行い、より効率的な高校訪問活動を強化した。
- (3) 社会人への広報活動を強化し、資格取得への道のPRに努めた。

2. 大阪府委託訓練事業の申請により介護科が採択され、学生1名が入校した。

3. 継続する施策

「清掃を中心とする環境整備」、「就学支援金」については、引き続き有効なものとして継続した。

(1) 学内奨学金の授与

卒業式で「学園長賞」、入学式で、在校生に「学園長賞」を授与した。

(2) 文部科学省中央教育審議会実施視察、および課程認定校の申請に対する下記の準備を順次進めた。今後も継続して進めていく。

1) 全学的組織の確立と諸規定(カリキュラム委員会規定含む)の準備

2) 教育課程、履修方法およびシラバスの整備

3) 教育実習の実施計画、教育実習校の選択・連絡等

4) 施設・整備等の整備(図書の充実、教員研究室、就職支援室の整備)

5) 就職指導の徹底

6) 指導大学(大阪教育大学)および教育委員会等との連携強化

7) 学校現場体験・学校支援ボランティア活動の強化(附属幼稚園との連携強化：例年のサマーカーニバル、運動会に加え、食育活動・合同避難訓練等

4. 文部科学省教職再課程認定による開講科目の見直しを行った。

5. 諸規定並びに内規等の全面見直し、改訂、作成を実施した。

IV. 箕面学園附属幼稚園

1. 園児募集活動の展開

4月に幼稚園型認定こども園化、10月幼児教育無償化、3月コロナウイルス感染症による休園と大きな出来事があり、変化が多かった1年であった。HPやメール、園だより等で情報発信を行い、5月のプレ幼稚園、かるがもでの開始を含め園活動の見える化に努め、園児募集活動の創意工夫を図りつつ広報活動も行うことで、園児募集に一定の成果を収めることができた。

2. 安全・安心の確保

園施設改善、整備も含め教育条件の整備拡充に努めていることを丁寧に広報することで保護者の理解と信頼の確保に繋がった。安全・安心確保のための環境整備を行うとともに、月1回の避難訓練の実施、また、施設等の点検・保守を通じて安全管理を行った。

3. 開かれた幼稚園づくりの推進

月1回の園だより、週1回のお知らせ、学級だより、HP、メールでの情報発信並びに、高等学校、福祉保育専門学校、地域の小学校や関係機関との連携を図り、初めて幼稚園紹介動画が作られHPで配信することができた。

4. 幼稚園型認定こども園化対応

幼児教育無償化対応は無事に終わることができたが、事務処理、行政との対応等慣れないゆえの課題は残す形となった。

5. 人材確保

教員の人材確保に努め、研修・研究保育を通じて教員の実践的指導力の向上を図った。また、新卒教員2名を採用する事ができた。

6. 安全な労働環境

安全な労働環境を確保するとともに、教職員のワーク・ライフバランス対応は今後とも働きやすい職場作りと合わせて今後も継続して行う。